

根源を求めて

Searching for the Root

濱田樹里
Juri Hamada



「陸の花」2003 180 x 455cm パネル、麻紙、膠、箔

私の研究するところの絵画は平面としての視覚的なものばかりではなく、空間全体を支配し鑑賞者を一つの「世界」に引き込むことを目的の一つとしている。鑑賞者は視界全部に入ってくる色彩・形態を身体全体で受け止め、共振し、思索する。制作も思索によって広がりを持つものであるが、鑑賞する側もまた思索を以て受信することで作者・作品・鑑賞者の一つの関係が完成を見るのである。

太古より地球上を大きく覆い、時に包み込むように、時に競うように生命の形態として織りなされてきた色、形。植物にはそれが余す所なく顕れている。そのうねりの幅を絵画として表す時、そこには鑑賞者をも覆い尽くしてなお余りある「空間」として再現されていくのである。思索によって引き出されてくるモチーフの大小関係は必ずしも現実の世界におけるそれとは異なる。それはそれぞれが持つ「いのち」の大きさ、重さに少しの違いも無いことを表現している事に他ならない。



「焔にたつ華」2005 200×1680cm パネル、麻紙、膠、箔



「地」2004 180×259cm パネル、麻紙、膠、箔



「地の樹」2004 210×510cm パネル、麻紙、膠、箔



「海から」2004 180×340cm パネル、麻紙、膠、箔



「伏す花」2007 200×1680cm パネル、麻紙、膠、箔



「花脈」2006 195×1494cm パネル、麻紙、膠、箔